

WINTER

MUSIC

上田 みらい

二千二十二年十二月十一日、冬へのカウントダウンがはじまりかけるこの日に、サントリーホールでも定期演奏会が開かれました。

今回は、オーケストラを率いる原田マエストロと、ことも奏者の方にインタビュをさせていただきました。この記事では、オーケストラのいつもとちや、インタビュした人たちの意外な一面もお話していきたいと思っています！

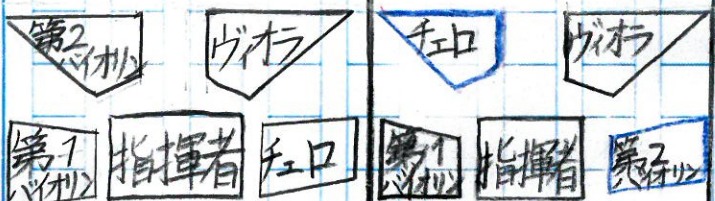
いつもどこがチエロが主役の古典配置

みなさんは、オーケストラの配置について意識したことはありますか？実は、今回はちとめずらしい配置だったのです。主に、オーケストラの楽器配置は「ストコフスキー・シフト」別名「現代配置」ですが、今回の配置は「古典配置」というものでした。この二つの配置、なにがちがうかというと、チエロと第二バイオリンの位置が入れかわっているのです。

「現代配置」は、左

現代配置の例

古典配置
いつもとちがう配置の部分



から第一バイオリン、第二バイオリン、ヴィオラ、チエロの順番ですが、古典配置は左から第一バイオリン、チエロ、ヴィオラ、第二バイオリンとなってます。私は今回、チエロの低音部がよくひびいてるなと思ったのですが、オーケストラ上は楽器それぞれが最も自分の音という個性を奏でる配置で演奏しているとして、感動しました。

原田マエストロへインタビュ！指揮者のグリングー

みなさん、ハプニングってしてありますか？そう、大事なピアノの発表会の当日、練習したのに大きなミスをしてしまったとか、みなさん自身にもそんな経験は山ほどあるはず。そこで私は、指揮者でも一度は「ああ、やってしまった」というようなことを思っただけはと考え、実際に質問しました。原田さんには、こんなエピソードがあったようです。『コンサートでの本番、一曲目の最初の五秒で指揮棒がすっぽ抜け、とんでいった。その時、原田さんが思ったことは、「楽器にだけ

はあたるな、カーブしろ！」だったといいます。指揮棒は見事、楽器にあたらなかった。うですが、どんな人にもハプニングは起こるものなのかな、と思いました。ことも奏者さんにインタビュ！みなさんへのメッセージ！舞台ですばらしい演奏を奏でてくれた、ことも奏者さんに、みなさんへのメッセージを伺いました！「緊張していても、みなさんと演奏して、一つの音楽をつくること、ができるうれしいです。」「小さな子どもにも、実際に子どもも定期演奏会にきて、オーケストラというジャンルにふれてほしいです」